



<源兵衛川>



<周辺地図>

◆湧水の概要

「小浜池」は富士山の伏流水の湧出により形成されている。「小浜池」を水源とする「源兵衛川」は、上流は自然河川、下流は灌漑用水路である。昭和30年代まで豊富な水量を誇ったが、周辺部の都市化や揚水型企業の工場の進出等により、湧水量が減少した。このような状況から、住民と行政、企業が一体となって、定期的な清掃活動や工場の一次冷却水の導水などの河川再生に向けた取り組みを行った結果、水辺環境が向上した。

「源兵衛川」の護岸には数多くの樹木が残されていることから、絶滅危惧IB類になっているホトケドジョウやサワガニなどが生息するほか、ミンマバイカモ、ゲンジボタルなどが生息している。

◆湧水の利活用等

湧水を水源とした源兵衛川や市内の水路沿いの修景も水辺のプロムナード整備事業としてすすめられ、都市景観の形成に寄与している。三島市は、生活用水の100%を地下水が占めており、一人当たりの一日の水道使用量も、全国平均・静岡県平均を上回っている。また、生活用水として利用されている地下水を保全するために、「三島市環境基本条例」が制定されており、市民の責務として地下水の保全に努めることが記載されている。

	主体	主な役割
産	商工会議所	ソフト事業
	企業	CSR活動
民	NPO法人	身近な環境改善
	市民ボランティア	里親等の清掃作業やガイド
	一般市民	緑化・清掃作業
官	行政	ハード事業

<役割分担>

◆湧水保全・復活の主な取組

1) 関連する組織での役割連携(街中がせせらぎ事業)

1990年代初頭、原風景を取り戻そうと多くの市民が立ち上がり、市民・NPO・企業・行政とのパートナーシップによるグラウンドワークを実施し、「水の都・三島」の原風景復活のための市民参加プロジェクト「街中がせせらぎ事業」が展開されている。

市民が主導的に計画づくりを実施するほか、せせらぎ協働体として事業サポート団体を集積し、市民、企業、行政がパートナーとなり、各々の役割分担(右表)によって街の活性化を図った。

湧水を水源とした水路沿いの修景は水辺のプロムナード事業として進められ、都市景観の向上に寄与している。湧水量が減少し源兵衛川の水量が不足する際、地元企業が一次冷却水を流し、美しい水辺環境が取り戻されている。



<森の小さなダムづくり>

2) 地域住民の参加と協働(森の小さなダムづくり)

「森の小さなダムづくり」は、雨水を地下に浸透させ、土砂の流出を防ぐなど森林のもつ地下水かん養機能を高めるとともに、間伐材の有効利用にもつながるため、三島湧水群の復活に向けた地下水を育てる取り組みとして進められている。雨水が集中する山のくぼみに、間伐した丸太を2~3段積み上げ、杭で固定して作った「丸太の堰」を設置している。堰は1基で約200ℓの雨水を貯められる構造である。

市民・企業ボランティアの協力の下で行われ、小中学校の環境学習の一環としても利用されている。森林や地下水の働きを学ぶ森林教室も同時に実施され、市民への環境教育、地下水保全の啓発の場となっている。

3) パンフレットの作成

「三島湧水群」の復活に向けて、湧水のメカニズム、湧水量の現状をとりまとめたパンフレットを作成している。パンフレットでは、主に一般市民が湧水保全に向けて取組める内容を取りまとめている。パンフレットは、環境教育の一環として、小学生や市民へ配布している。



<パンフレット~三島湧水群の復活に向けて>

- ・「水の郷百選」(平成7年・国土庁)に認定
- ・平成17年度都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」、平成17年度国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」(地域整備部門)、平成18年 中部の未来創造大賞「大賞」、平成18年度 優秀観光地づくり賞「金賞総務大臣賞」
- ・引用・参考文献:(1)街中がせせらぎ事業パンフレット, 三島市、(2)三島湧水群の復活に向けて, 三島市、(3)平成の名水百選, 環境省ホームページ
- ・関連機関: 三島市、三島市商工会議所 など



<柿田川湧水群>



<周辺地図>

◆湧水の概要

富士山周辺には、湧出箇所が多数存在するが、その中で柿田川の水量が最も多く、「東洋一の湧水」と呼ばれている。約8,500年前の富士山の爆発で、大量の溶岩を噴出して出来たのが三島溶岩流と言われており、三島溶岩流の間を通過して、富士山の東斜面に降った雨や雪解け水が湧水となって現れている。特に、柿田川周辺に「柿田川湧水群」と呼ばれる湧水の湧出箇所が存在する。

市街地から湧出した湧水が集まり、川幅30～50m、延長約1,200mの河川となって狩野川と合流している。柿田川は、その流域に豊かな自然環境を形成し、ミシマバイカモなど貴重な生態系を維持している。また、柿田川は湧水を水源としていることから、かつては泉川、地域は泉郷と呼ばれていた。

◆湧水の利活用等

柿田川の水は、優れた水質と豊かな水量を誇っており、静岡県の東部地域の35万人の飲料水として利用されている。利用されている水量は、一日に約30万m³であり、湧水の残り約70万m³は狩野川に注がれている。

◆湧水保全・復活の主な取組

1) かん養域の視点からの広域的連携（富士山麓の植樹活動）

柿田川の水源である富士山麓の地下水を保全するために、山麓の国有林にブナなどの苗木を植える植樹活動が進められている。

植樹活動は、「(財)柿田川みどりのトラスト」、「沼津市民協議会」、「三島自然を守る会」、「柿田川湧水保全の会」などの環境保護団体が構成する「柿田川・東富士の地下水を守る連絡会」が中心となり、清水町、三島市、沼津市、長泉町も協力している。



<富士山麓の植樹活動>

2) 地域住民とのトラスト運動を展開

柿田川では貴重な自然を後世に伝えるために、ナショナル・トラスト運動が行なわれている（ナショナル・トラスト運動：寄付金を集めて基金を積み立て、保護が必要な土地を確保する運動）。1988年に「(財)柿田川みどりのトラスト」が発足し、基金が積み立てられ、土地を買収・借り上げしている。寄付金の約半分は静岡県内、約半分は県外から寄せられ、柿田川に対する全国的な関心の高さを示している。

また、清水町では柿田川の上流部に「柿田川公園」を整備しており、園内では地下水が湧出する「湧き間」を間近に見ることができる。清水町では、清掃活動や柿田川周辺の民有地の買収を行い、柿田川の環境保全に努めている。

3) インターネットによる情報の共有

清水町のホームページでは、柿田川情報として、柿田川の自然環境・歴史、動物植物図鑑、四季フォトグラフを公開している。また、柿田川の湧水ビデオをみることができる。

柿田川を管轄している沼津河川国道事務所では、ホームページ「インフォメーションかのがわ」を作成して、柿田川や狩野川の情報をインターネットで紹介している。「インフォメーションかのがわ」では、柿田川の水中の様子を見ることができる「水中ライブカメラ」、「バーチャル狩野川水族館」、「狩野川空中散歩」など柿田川や狩野川の美しい自然を楽しむことができる。



<水中カメラ（柿田川）>

・『21世紀に残したい日本の自然100選』（朝日新聞社・(財)森林文化協会 昭和58年）、『静岡県の自然100選』（朝日新聞社・静岡県・静岡けんみんテレビ・(財)森林文化協会 昭和61年）、『ふるさと生きものの里』（環境庁 平成元年）、『静岡県のみずべ100選』（静岡県 平成3年）に選定
 ・引用・参考文献：(1)名水百選、環境省ホームページ、(2)いふWeb、国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所ホームページ、(3)柿田川の自然環境・歴史、清水町ホームページ
 ・関連機関：清水町、静岡県、国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所 など

21. 蛍流公園の石清水(愛知県岡崎市)



＜蛍流公園奥の山中から湧出する石清水＞



＜湧水マップ＞

◆ 湧水の概要

「蛍流公園の石清水」は「ちせいの里」の東側に位置する蛍流公園奥から湧き出る湧水である。

ちせいの里の住民によって「ちせいの里ロックエンゼルの会」が組織され、蛍流公園奥の山中から湧出する石清水の保全、ちせいの里住民の常用及び非常用飲料水の確保、蛍が舞うような豊かな自然環境の創造を目的として自発的な活動が行なわれている。湧出量は6ℓ/分、水温は14～15℃である。

◆ 湧水の利活用等

「ちせいの里」は岡崎市東部に位置する宅地分譲事業として造成され、水道水は住宅地背後の山に据えたタンクから全世帯に配水されているが、貯水できるのは数日分である。そのため、蛍流公園奥の山中から湧出する石清水が常用及び非常用の飲料水として利活用されている。

◆ 湧水保全・復活の主な取組

1) 地域住民との協働

岡崎市茅原沢町の「ちせいの里ロックエンゼルの会」は、岡崎市の〈市民環境目標※〉第一号に認定されている。住宅地東側の蛍流公園奥から湧き出る石清水を住民の常用・非常時用飲料水として確保し、ホタルが舞う豊かな自然環境をつくっていることが評価されている。(※市民環境目標: 快適で良好な生活環境を維持しようと目標を掲げて活動する団体から申請を受け、岡崎市環境保全課が認定)

「ちせいの里ロックエンゼルの会」は、新しいまちの“ふるさとづくり”の中核として活動しており、石清水の近況を随時、回覧で全世帯に知らせ、水源の点検などを行っている。さらに、蛍流公園脇の「ホタルの里」へ流れ込む石清水周辺の草刈りや間伐などが行なわれており、住民の自主的な活動が自然を守り育てている。また、アユ漁、ホタル幼虫の飼育・放流、防災訓練など住民の自主的な地域活動が取組まれている。

2) 環境学習

蛍流公園脇の「ホタルの里」は、環境学習のフィールドに活用されている。地元の中学校では、岡崎ゲンジボタルの保護・養殖活動としてゲンジボタルの飼育活動を続けており、昭和43年以降毎年数千匹の幼虫を学区の川(男川、乙川)に放流している。また、ホタル愛護の看板を立てるなどの活動も行っており、学校のホームページで平成21年度ホタル発生状況を伝えている。

これらの環境活動が評価され、平成5年の「第28回全国野生生物保護実績発表大会優秀賞(環境庁自然保護局)」など、様々な賞を受賞している。

3) 地域振興

湧水を活用して、オリジナル大吟醸「ロックエンゼル」の酒づくりが行われている。取組は「ちせいの里ロックエンゼルの会」が行っており、近くの山に湧き出す「石清水」を醸造所に運び、製造された酒を地域に配っており、地域振興にも役立っている。



＜ホタル発生状況 紹介ホームページ＞

コヅツミニシイケユウスイシツチ
22. 小堤西池湧水湿地(愛知県刈谷市)

湿地・池
タイプ



<小堤西池湧水湿地>



<周辺地図>

◆湧水の概要

「小堤西池」は、刈谷市の北東端部に位置する。小堤西池のかん養域の東側丘陵地は西に開けた谷地形となっており、それが池の湧水の供給源になっているものと考えられる。

小堤西池には、カキツバタを始めとする100種以上の湿地固有の植物が生息しており、昭和13年に「小堤西池のカキツバタ群落」が国指定天然記念物に指定されている。

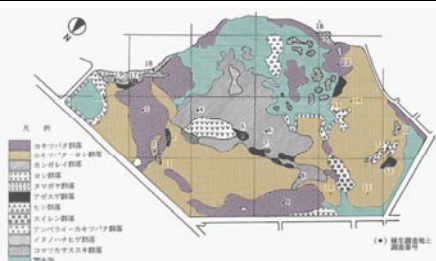
◆湧水の利活用等

刈谷市教育委員会がカキツバタ群落の保護・育成を目的に、平成2年から小堤西池の水位計測の調査及び水質分析を実施し、現在も継続して調査が行なわれている。また、国の天然記念物に指定されていることから、5月の開花期には県内外から多くの観光客が訪れ、紹介パンフレットも作成されている。

◆湧水保全・復活の主な取組

1) モニタリングと効果検証(湧水量と植生の変化)

刈谷市では、湧水湿地の湧水量と植生の変化を把握するため、定期的に植生の現地調査を行い、現存植生図、水生植物の生育状況の経年変化、及び湧水池環境変化に伴う植生変化等を観察している。



<現存の植生図(平成5年)>

昭和59年	平成5年
カキツバタ・チゴザサ群落	→ カキツバタ群落、カキツバタ・ヨシ群落
カンガレイ・ヒメコウホネ群落	→ カンガレイ群落
イヌノハナヒゲ・スイラン群落	→ イヌノハナヒゲ群落、コマツカサスキ群落
イトイヌノハナヒゲ・ミミカキグサ群落	→ イヌノハナヒゲ群落
ヌマガヤ・オオミズゴケ群落	→ ヌマガヤ群落
スイレン群落	→ スイレン群落(除去対象群落)
ヒシ群落	→ ヒシ群落
クログワイ・ノタヌキモ群落	→ 消滅
ミクリsp.群落	→ 消滅

<水生植生の経年変化(昭和59年・平成5年)>

2) 多様な組織(産・官・学・民)での役割連携

昭和59年(1984)に「小堤西池カキツバタ群落保存対策調査委員会」が設立されている。調査委員により、小堤西池の湧水のメカニズム、水位調査及び池の水源でもある東側丘陵地における植物・動物・地質等に関する様々な調査研究が行われている。

しかし、湧水量の減少などにより、現在の群落は、国指定天然記念物に指定された当初の豊富な動植物相を見ることができなくなっている。

これらの課題を解決するため、さらに、「小堤西池カキツバタ群落保存管理計画策定委員会」を組織し、今後の保存管理方法等について検討・協議を行い、「小堤西池カキツバタ群落保存管理計画」がとりまとめられている。

3) 地域住民の参加と協働

昭和30年代から、地元の中学生や井ヶ谷青年団員などの協力で、カキツバタを保全するために、除草が行われている。昭和51年5月から、小堤西池を有する井ヶ谷町の町民有志を中心に結成された「小堤西池のカキツバタを守る会」をはじめ市内企業や団体等多くのボランティアによって小堤西池周辺の保全活動が行なわれている。



<除草風景>

・引用・参考文献：(1) 刈谷市教育委員会編「小堤西池カキツバタ群落の20年」2007.3、(2) 杉浦・浜島編「国指定天然記念物 小堤西池のカキツバタ群落」むかし・いま、1982.12、(3) 平成20年度湧水保全・復活活動支援モデル事業、環境省水・大気環境局、2009.3
・関連機関：刈谷市、刈谷市教育委員会、小堤西池カキツバタ群落保存対策調査委員会 など



〈お亀池〉



〈湧水マップ〉

◆湧水の概要

お亀池を中心として点在する「曾爾高原湧水群」は、地域の豊かな生物を育む源となっている。

周辺には貴重な植物であるササユリや、最南限といわれるサギスゲの群生等が確認されており、自然を保全するため、地元住民や地元団体、自治体により、定期的なごみ拾い、河川清掃等の保全活動が積極的に行われている。

◆湧水の利活用等

「曾爾高原湧水群」は水量も多く、曾爾村大字太良路地内のほぼ全世帯及び全事業所の生活用水として活用されている。また昔から、高原野菜の栽培・米作りなど農業用水としても利用されている。近年では、曾爾高原の特産品として地ビールの醸造が行われている。「お亀池」には大蛇伝説が残っており、大蛇が飲んだとされる場所は「水飲み」といわれ、現在も地域住民の取水場となっている。

湧水群周辺の自然を保全するため、曾爾村では「曾爾村環境保全条例」を制定している。また、自然公園法の特別地域に指定されている。

◆湧水保全・復活の主な取組

1) 地域住民の参加と協働

「曾爾高原湧水群」は、赤目・室生・青山国定公園内に位置し、お亀池を中心として周辺に点在している。湿原特有のサギスゲの最南限といわれる群生地が確認されるなど、豊かな生物を育む源となっている。これらの自然を保全するため、「曾爾村環境保全条例」が制定され、住民による清掃活動が定期的に行われている。

保全活動の一環として行われる山焼きは、約千年の歴史があると言われる。曾爾高原及びお亀池の自然環境保全のため、年1回、行政と地元住民により山焼きを実施している。



〈曾爾高原湿地のサギスゲ〉

2) 情報発信・環境教育

お亀池については、公園整備がされるなど、湧水地へのアクセスの確保が進められている。また、ホームページでの曾爾高原の情報公開や、観光ガイドブックの作成が行われるなど、「曾爾高原湧水群」の情報発信が行われている。

曾爾高原には、国立曾爾青少年自然の家があり、近畿・中部圏より年間約12万人の青少年が施設を利用している。これらの利用者は曾爾高原の自然に触れ、また専門の指導員等による自然環境に関する体感学習を行っている。

国の天然記念物に指定されている曾爾高原は、読売新聞社主催の「遊歩百選」にも選ばれ、日本でも有数の自然環境を有している。こうした環境の中で自然環境体験学習を行うことで、「自然＝曾爾」と言われるほどの知名度がある。



〈体感学習風景〉

- ・「遊歩百選」(平成14年・読売新聞社)に選定
- ・引用・参考文献:(1)平成の名水百選、環境省ホームページ、(2)活動・プログラム(植物観察)、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立曾爾青少年自然の家ホームページ
- ・関連機関:曾爾村、国立曾爾青少年自然の家 など

24. 布勢の清水(鳥取県鳥取市)

・平成の名水百選

傾斜丘陵地
タイプ



<布勢の清水(湧水池)>



<湧水マップ>

◆湧水の概要

「布勢の清水」は、布勢平神社の境内の岩の下から湧き出す清冷な清水であり、古くからこの地域の人々の生活用水として大切にされている。戦国時代、この地の領主だった亀井茲矩は、「その清冷さ氷のごとき」と称賛して、清水の傍らに涼亭を設け、夏には日ごとに納涼したと伝えられる。

湧水の周辺は豊かな生物・生態系に育まれ、主に梅花藻(バイガモ)が生育しているが、標高50mの低地での生育分布は極めて稀である。また、湧水池の背後には布勢平神社の社叢があり、タブノキを中心とする、幹周1m以上の照葉樹林が分布している。

◆湧水の利活用等

古くから生活用水、農業用水として利用されている。現在は、直接湧水に触れることができるような親水整備がされている。「布勢の清水」及びその周辺の9haは、鳥取県の自然環境保全地域に指定されるなど、良好な自然環境を保っており、地域住民も環境保全に協力している。

◆湧水保全・復活の主な取組

1) 地域づくり施策との連携

湧水池には、東屋が設置され、散歩等にきた人が休憩できるようになっている。さらに、直接、湧水に触れることができるよう、自然石が水面近くまで階段状に配置されている。

また、多くの市民等が利用出来るように、水源から県道の傍までパイプを敷設するなどの配慮がなされており、この水を求めて遠方からやってくる人も多くみられる。



<布勢の清水(東屋)>

2) 地域住民との連携

明治42年、「布勢の清水」を利用して、初めての水道が住民の力で敷設された。これを機に、湧水を守ろうという意識が高まり、地域住民が湧水池や周辺の清掃活動を行ってきた。

近年は殿集落の住民で組織する「清水の恵みを守る会」を中心に、「布勢の清水」、布勢平神社一帯の清掃が行なわれている。また、春と秋には、殿集落の地域住民で湧水池の清掃も行なっている。さらに、布勢平神社の清掃を毎週行い、良好な環境維持に努めている。



<布勢の清水(取水所)>

3) 環境教育・人材育成

地元逢坂小学校の総合学習の中で、毎年、環境をテーマに「布勢の清水」について調査している。今までにpHの測定、他の水との味比べ、水の利用方法等の調査が行なわれ、「布勢の清水」を題材とした環境教育が行なわれている。

- ・因伯の名水(鳥取県昭和60年選定)に指定
- ・引用・参考文献:(1)平成の名水百選,環境省ホームページ,(2)因伯の名水,鳥取県水・大気環境課ホームページ,(3)平成の名水百選(国選定)と因伯の名水(県選定),鳥取市環境政策課ホームページ
- ・関連機関:鳥取市、鳥取県 など



＜別府弁天池湧水＞



＜周辺地図＞

◆湧水の概要

カルスト地形や鍾乳洞で有名な秋吉台付近には多くの地下水や湧水が存在している。その1つの「別府弁天池湧水」は、西秋吉台の北方に位置する厳島神社の境内にあり、周囲約40mの池の底やその周辺から湧き出した地下水は、池の中央部で淡いエメラルドグリーン美しい水の景観を呈している。水温は年間を通じて14℃と一定であり、湧出量は日量5万m³と豊富な水量を誇っている。社を建立し、祭や神楽を奏し水源を探したところ、にわかには水が湧き出したと言われている。

◆湧水の利活用等

「別府弁天池湧水」は、生活用水や農業用水、鱒の養殖用の水として使われるなど、地域にとって大切な水源として活用されている。また、定期的に水をくみに来る人も多い。

◆湧水保全・復活の主な取組

1) 地域住民の参加と協働

地元の住民団体、美祢市により、湧水保全が行われている。特に、「別府弁天池湧水」は、住民団体である別府水上会講によって管理されている。

具体的な取組みとして、別府水上会講では、年2～3回の頻度で清掃を実施し、毎年6月上旬に池ざらいを行っている。また、美祢市では、月1回の頻度で水質測定を実施している。



＜別府念仏踊り＞

2) 地域づくり施策等との連携

毎年9月の第1土曜日の翌日（日曜）に別府弁天祭りが開催される。この祭は、豊年満作を願い、神の恵みである水に感謝する祭で、山口県指定無形文化財「別府念仏踊り」が奉納される。名水百選である「別府弁天池湧水」周辺では、田舎芝居や露店が立ち並び、多くの人々で賑わっている。

3) 地域住民による地域づくり

別府弁天池の清らかな湧水を利用し、ニジマスやアマゴが養殖され、周辺の旅館やホテルなどに出荷している。

また、湧水池の隣には、市営の養鱒場があり、観光釣り堀として整備されており、子供から大人までが楽しめる施設となっている。釣り堀の周囲には数軒の料理店が並び、釣った魚の料理が楽しめる。



＜美祢市の養鱒場＞

26. 西条市のうちぬき（愛媛県西条市）

サイジョウシ

・名水百選

傾斜丘陵地
タイプ(伏流水)



<うちぬき>



<周辺地図>

◆湧水の概要

西条の地下水量は、旧西条市における地下水の資源調査の結果、自噴地帯の地下に約3億m³の地下水が存在していると推測されている。毎年水質の検査が実施されており、海岸近くでは一部塩水化の傾向が見られるものの、ほとんどの検査箇所での飲用水の水質基準に適合し、安全で美味しい水であるとされている。

◆湧水の利活用等

「うちぬき」は、古くから住民の飲用水、生活用水、農業用水、工業用水などとして利用されてきた。今でも西条地域の中心部には水道施設がなく、全ての地域住民が地下水を飲用水、生活用水として利用している。また、昔ながらの「うちぬき」の自噴井は約2,000本ある。

「うちぬき」は、西条市にとって貴重な資源であることから、地下水の水源の保護、水質の保全、水量の維持を目的とした「西条市地下水の保全に関する条例」が制定されている。

◆湧水保全・復活の主な取組

1) 関連する組織での地域振興

昭和60年5月、アクアトピア（親水都市）として国土交通省の事業指定を受けるなど、西条市の重点施策の一つとして、「親しみある水辺景観づくり」を進めている。アクアトピア事業として、市街中心部を流れる観音水から陣屋跡堀間の2.4kmを対象に、公共下水道の整備を行った。

また、西条市観光協会では、「西条型アクア・ツーリズム」と題し、土、日に市街地の「うちぬき」や歴史スポットなどを案内するガイド「水めぐり案内人」を行っている。さらに、西条市・観光協会・JA・企業・専門家・地域住民による「西条型アクア・ツーリズム」の調査委員会と具体的にメニューを考え実践を検討するミーティング部会を設置し、以下を検討している。

- ・「水」をテーマにした「歩き型コース」などの「体感メニュー」作成
- ・「歩き型コース」作成に伴い「水めぐり案内人」の育成 など

2) かん養域の視点からの広域的連携

西条市周辺の地下水を保全するため、愛媛県東予地域の3市が、かん養域の水源地林づくりを行う負担金を出し合い「東予流域林業活性化センター」を立ち上げている。このセンターでは、流域内の人工林を、地下水のかん養に望ましい水源林にする計画を立てている。そして、この計画を森林組合と林業関係者が実践することによって、林業の活性化が図られるよう取組んでいる。

また、平成10年から、年間12日程度のボランティアによる「水源の森づくり作業体験」を実施している。

3) HPによる情報提供

西条市のホームページ内にバーチャル「水の歴史館」を作っており、広く水の大切さの周知を図っている。

<主な掲載項目>

イベント、水から見た地球環境、水の歴史、西条市水資料館、水辺の生き物、いのちを支える水、水のエッセイ、西条市の水収支、水のふしぎ



<水源の森づくり 作業状況>



<水の郷西条 水の歴史館>

- ・「水の郷百選」（平成7年・国土庁）に認定
- ・引用・参考文献：(1)名水百選、環境省ホームページ、(2)西条市ホームページ、(3)「水源の森づくり」、東予流域林業活性化センターホームページ
- ・関連機関：西条市、西条市観光協会、東予流域林業活性化センター など